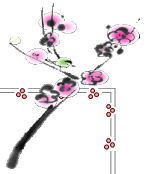




まり子から

安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう



# 新しい年は市民が参加して 市立病院を作り上げるスタートの年に！

## 2010年、病院開設は決まった！

昨年9月、市議会は徳洲会を市立病院の指定管理者とする議案を可決。市は全国初の指定管理者制度による市立病院新設を奈良県に申請。12月15日、待ちに待った開設許可が下りました。

高齢化が進む日本では医療の需要はますます高まります。住民が安心して暮らすためには医療の確保は欠かせません。しかし、私たちが暮らす西和医療圏の医師数は全国平均人口10万人対224,5人に比し167,9人。奈良県内でも医療機関の不足が深刻な南和医療圏の158人に次ぐ少なさです（厚労省：平成21年地域保健医療基礎統計）。その中で開設される10診療科の市立病院は住民に大きな安心を与えるでしょう。

また、市立病院は不足医療の充足に寄与するだけでなく、疾病予防や保健、介護、福祉、教育など医療と関連した様々な分野で大きな役割を果たすでしょう。

しかし、課題もあります。有効で効率的な医療のためには医療機関の連携が不可欠です。そのための協議の場が



必要です。また、医師不足の中で市立病院を運営していくためには、医療従事者を疲弊させないような住民側の正しく病院を利用する智恵と努力も必要です。

## 2011年は病院に魂を入れる！

市立病院開設許可へと県を動かしたのは昨年の署名等で示された住民の意思です。子どもたちやお年寄り、そして、みんなのための市立病院開設は市民が勝ち取ったものです。そして市立病院が真に市民のためにより医療を提供する病院になるためには、これからの取り組みこそが大切です。今年は、市民が参加して市民のための市立病院を作り上げるスタートの年。あなたの参加で病院に「市民の病院」という魂を入れましょう！



生駒市立病院のイメージ図＝生駒市

### 病院開設までの予定

- 23年2月 実施設計等入札
- 23年3月 実施設計着手
- 23年秋 造成工事着手
- 24年夏 建設工事着手
- 26年春 開院



2011年 お正月の花

## 12月議会 議員報酬は月額7万円減、定数は現状維持

先の定例会、市民のみなさんは議員の報酬と定数を議会自らどれくらい削減するか？に注目されたと思います。私は削減要求の根底には前市長や元議長の収賄などの不正をチェックできなかった議会に対する市民の不信・不満があり、今期についても議会の自己浄化が不十分であったことに対する怒り

があると思います。

私は報酬については民間給与の変遷に見合った削減額を示した修正案（月額57万円から50万円に減額）に賛成。定数については削減に否定的ではありませんが、議論を深める必要があると考え、今回は現状維持に賛成しました。

(p2に関連)

# 12月議会のご報告

## 21年度決算、23議案・1請願などを審議

12月議会の注目は、市民からの直接請求に基づく議員の報酬と定数を削減する議案でした。議員の報酬と定数については、市議会でも平成19年6月に設置した『議会改革に関する検討会』議会活性化部会で2年も議論。しかし、報酬の結論は出ず、定数は現状維持でした。そこへ削減の直接請求です。市議会は市民団体からの意見聴取、市民の皆さんとの意見交換会を経て12月議会での審議に臨みました。

## 報酬定数削減の直接請求は否決、修正案可決

市長は、直接請求である「議員報酬30%減と6議席減」に「現在の職業をやめてでも議員に立候補しよう」と決断できる額が必要だから30%減には賛同できない。6議席減には賛成」とした意見書を付した議案74号を提案。さらに市長の諮問委である報酬審議会の答申を受け、報酬を12%削減する議案76号を提案しました。それらを審議した企画総務委員会では報酬の削減率12%を15%減と月額7万円減額する2つの修正案が出され、最終本会議には報酬を15%、定数を4減ずる修正動議が出されました。結局、直接請求の議案74号は否決、議員報酬は月額57万円から50万円に7万円減ずる修正案が可決しました。

私は市長同様、立候補者の幅を狭めてしまう報酬30%減案には賛成できません。12%や15%削

その他、景観条例や住民票の写し等のコンビニ交付サービス開始（23年4月から）のための条例、市内9施設の指定管理者の指定議案なども審議しました。私は本会議で一般質問をしました。【P3に関連記事】

12/22 朝日新聞



減する案は生駒市と類似の自治体の議員報酬から導かれた案でしたが、これは団体の選び方により額が大きく変わります。そこで、民間給与の変遷に基づいた月額7万円減に賛成しました。

議員定数については様々な民意を反映する点から極端な削減には反対ですが、議案等の審査に支障なく議会機能の低下を来たさない範囲での削減は可能と考えます。しかし、現在『議会改革に関する検討会』議会活性化部会で議会基本条例の制定を視野に議会の役割・機能について議論中であることから、役割・機能を熟慮してから定数を検討すべきと考え、今回は現状維持としました。

市民のみなさんの忌憚ないご意見を承りたく存じます。



本会議の様子は市議会のホームページから見ることができます。

議場から  
市民の前へ

## 市民の皆さんとの意見交換会開催

延べ247人  
参加！

### 11/27～12/5、市内12会場へ

“市民の皆さんとの意見交換会”は議員報酬と定数についての直接請求をきっかけに、市民のみなさんのご意見を12月議会での審議の参考にするため、急ぎよ、開催しました。

土日は午前と午後、平日は午後7時から、約1時間半、12小学校の多目的室で開催。議員は3班に分かれて伺いました。定数報酬の実態、法的根拠、他市の事例等の資料を配布、担当者が説明し、ご意見をお聞きました。12会場合わせて延べ247人参加され、定数・報酬だけでなく、たくさんのご意見を伺いました。

### 先進地では開催中、天理市・平群町でも実施

同様の企画は議会改革の先進地では“議会報告会”などの名称ですで行われています。

『議会改革に関する検討会』市民参加・広報部

会では本年7月に伊賀市の議会報告会を視察し、生駒市での開催を検討しています。私は11月9日、会津若松市議会の“市民との意見交換会”を視察しました。同市では戴いた意見を聞きっぱなしにすることなく、市政に活かしていました。「意見交換会」を継続し、市民の意見を議



会として受け止め、市政に活かして行ければと思っています。



## 1. 小児科入院について質問

**伊木:** 現在、子どもは市外の病院に入院している。家から遠く離れて不安に思い、家族には体力的、時間的、金銭的負担が大きい。市立病院が開院するまでの3年間、市内の病院に補助金を出して入院受け入れをお願いできないか？

**市長:** まずは小児科を増床するとして県から病床配分を受けた阪奈中央病院に取り組みをお願いするのが筋。それがだめになったときには補助金を出してお願いすることも検討に値すると思うが、そのころには市立病院が開院していると思う。

**伊木:** 開院までの間、市民が困らないように、阪奈中央病院の取り組み状況を尋ね、他の病院とも相談し市内での子どもの入院施設を検討して欲しい。

## 2. 救急医療の充実、医療機関との連携構築については市の具体策の提示なし。

**伊木:** 医師会、市民、指定管理者、学識経験者などが参加する地域医療対策協議会を規定した条例を制定し、協議会を開催し、市立病院の開院までに取り組みを始めてはどうか？ 地域医療対策協議会には小児医療、救急医療、老人医療、予防医学、地域医療情報ネットワーク部会を設置してはどうか？

**市長:** 市立病院の管理運営協議会で話し合い、これを通じて地域の医療機関と信頼関係を醸成し、その上で地域医療のことも考える必要が認識されたら協議会の設置を考えればよい。

**そんなに先では遅すぎます。今から検討を！**

**3. 災害時医療救護協定について10回目の質問**  
昨年9月、もうこれ以上は待てないと医師会長に協定の早期締結を直訴したのですが・・・

**市側の答弁:** 条件面で医師会と折り合いがつかず、協定締結はまだで・・・

**伊木:** 急に災害が起きたらどうするのか？ 救護活動がうまくいけず人が死亡者がでたらどうするのか？ 早期協定締結を！！

## 4. 平城遷都1300年記念事業の一つ『いこま国際音楽祭』の継続実施について質問

今回の音楽祭、名演奏に聞き入った多くの人に深い感動を与えました。市側の答弁では、音楽祭の収支は県補助300万円、チケット販売等事業収入417万円、出演料・交通費・コンサート委託料など1256万円円で539万円の赤字（竹あかりのタベ・日野皓正コンサートは除く）。40人余りの通訳を含め、ボランティアで67人も市民が参加。オープニング、ファイナルコンサート時の入場者へのアンケートでは「良かった」という感想が全てだったとのこと。しかし、来年度以降は県の補助はなく、この規模での開催は費用的に無理で今後の計画は未定。

**え～、今回限りでは残念！ 何か妙案はないの？**

**伊木:** 子どもたちは著名な音楽家と共演し、指導を受けた。次は自分もと思った子どももたくさんいると思う。今回の感動や市民ボランティアのエネルギー等を切ることなく、今後の文化振興に繋げて欲しい。

管理運営協議会は指定管理者との基本協定書に盛り込まれるので、基本協定書締結までは設置されない。3年先になるのでは？それでは遅すぎる。再度、提案せねば・・・



# 議会改革の最先進地、会津若松市議会を視察！

# 11/9・10

平成19年に臨床医から議員に転身した私は、初めての委員会で戸惑いました。議員間では討議ができないのです。私は『委員会では自由に話し合って政策を決めていく場に』と主張しましたが、今も議員間討議は行われていません。しかし、会津若松市では審議に不可欠として行われています。当前のことが当前にできる議会にしたいものです。

## 年2回、市民との意見交換会を15会場で開催・・・

全議員が5班に分かれ、議会活動を報告後、テーマを決めて市民と徹底討論。会場で出た意見を議会に持ち帰り、どう対応するか議会全体で検討しています。

## 市民の声を汲み取り政策提言に繋げている・・・

意見交換会で出された意見は市長に届けるもの、議会内で検討するものに分け『聞きっ放しにしない』姿勢

で対応。さらに議会内で学識経験者の指導も受けながら議員間での討議を繰り返し、その過程で市民へ説明や討論もしています。重要な案件については、政策としてまとめ、議会から市に提案しています。

## 生駒でも・・・

市民からの様々な課題を議会がしっかり議論し、市側に提案。更に良い施策を探していく・・・そんな議会にしたいものです。



議教コミュニティーセンター

# みんなでまちづくり！ 安心して子どもを生み育てるために必要なことは？

“地域医療や安心のまちづくりについて” 子育て中の沢田かおるさんと意見交換をしました！

ようやく市立病院開設へスタートしました。でも、救急医療、小児科入院医療を充実させるための市立病院ができるのは3年以上先です。病気は待ってられません。それまでの間、どうやって乗り切るか？

どうしたら安心の街づくりができるのか？ 前回の選挙中、うぐいす嬢として私の選挙活動を支えてくださった沢田かおるさんと一緒に考えてみました。

**伊木：現在、医療について心配なことは？**

**沢田：**私はハイリスクの出産で近大病院に入院していました。息子は仮死状態で生まれ、心臓に穴が見つかり、不整脈、黄疸の症状が出たのですが、産婦人科から小児科NICU（新生児特定集中治療室）にすぐ移してもらえたので助かりました。他の病院で生まれた赤ちゃんの命が危ない

時、搬送が現体制で間に合うのかとても心配です。また、子どもが肺炎や新型インフルエンザなどの感染症にかかった時に入院できる病院が生駒に無い事も心配です。次男が小さい頃、肺炎で生駒総合病院



に入院しましたが、長男が当時小学生だったこともあり、家と病院を行き来しなければなりませんので近くの病院に入院できて本当に助かりました。市立病院が出来るまでの空白の期間を埋めるため、市内の病院に入院ベッドを確保するといった対策が必要と思います。

**伊木：市内の医療、理想像は？**

**沢田：**赤ちゃんから、人生の最後の時まで生駒で安心して暮らせる医療が生駒に欲しいです。そのためには産婦人科と小児科の連携、一次医療（通院）の診療所と二次医療（入院）を担当する市立病院や民間病院との連携、各病院間の連携、救急車を速やかに受け入れる病院が決まるシステム開発、末期医療自宅看護のサポート制度などが重要だと思います。また、私達患者は自分の病気でどの病院に行けばよ

**‘沢田かおる’さんはこんな人！**

42歳の主婦。ご両親も一緒に三世代で軽井沢町に在住。伊木も参加した市民集会“どうする生駒の新病院”（パートIとII）の司会を担当。生駒幼稚園で運動会のアナウンス、生駒小学校で絵本を読む活動、緑ヶ丘中学校で花を植えるなどスクールボランティアとして活動中。趣味はお菓子作りとガーデニング。家族で稽古に励む空手は息子や夫の上を行く上級者。自然に恵まれた大好きな生駒のまちをもっと住みよくしたい元気ママです。



いのか判断つかずに大きい病院に行く傾向があります。信頼できるかかりつけ医があれば必要な時に適切な病院を紹介して下さると思いますが、近大病院、市立病院、他の病院、診療所が緊密な連携をとってくれるよう生駒市としても努力をしてほしいと思います。また、私たち市民も医療機関をどのように利用すればよいか十分に考えて行動したいものです。

**伊木：安心のまちづくりについて提案は？**

**沢田：**すべての世代の方々が安心して暮らせる“優しいまち生駒”であって欲しいです。それは私達が、生駒のために何ができるかを考えることから始まります。先日、離乳食講習会の間、参加者の赤ちゃんを預かるボランティア活動を見学しました。赤ちゃん達の可愛いこと、そして孫を抱くように赤ちゃんのお世話をするボランティアさん達の幸せそうな顔を見て、心が温かくなりました。ボランティアにとって、一番嬉しいのは「ありがとう」の言葉。お迎え時に若いお母さんたちにお礼を言われるのはとっても嬉しく、預かっている間の様子を伝えるなど交流の場にもなっています。また生駒小学校の一年生に、年1回、民生委員さんが昔遊びを教えにきてくださるので、子ども達はとてもよい経験をしています。シニアのボランティアさんによる昔遊びや、花植えを子ども達と共に楽しみながら異世代交流の出来る機会がもっとあればよいと思います。赤ちゃんから、お父さんお母さん世代、おじいちゃんおばあちゃん世代が繋がることで相手を思いやる気持ちが生まれ、安心の街づくりに繋がっていくと思います。

**伊木のお願い：今後は沢田かおるさんのような若い世代と“安全・安心の病院づくり、まちづくり”をしていく所存です。皆様のご支援をお願いします。**